

平成 30 年度（第 6 2 回）

岩手県教育研究発表会発表資料

音楽分科会

自分の思いを音楽で表現できる子どもを育む授業づくり

～創作・歌唱の授業を通して～

宮古市立宮古小学校

松館 慧

<目次>

I	研究主題	1
II	研究の概要	1
	1 研究主題の理由	1
	(1) 新学習指導要領から	
	(2) 平成30年度岩手県教育研究大会宮古大会及び本校の研究から	
	2 研究の基本的な考え	2
	(1) 「自分の思い」とは	
	(2) 「音楽で表現できる」とは	
	3 研究の目的	2
	4 研究の内容	2
	(1) 3つの場の設定	
	(2) 3つの場における具体的な手立ての工夫	
	5 研究構想図	3
III	研究の実際と考察	4
	1 創作「繰り返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくろう」の実践	
	2 歌唱・鑑賞「日本の音楽の特徴を感じ取り、民謡に親しもう」の実践	
IV	成果と課題	17

I 研究主題

自分の思いを音楽で表現できる子どもを育む授業づくり

～創作・歌唱の授業を通して～

II 研究の概要

1 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領から

音楽科では、これまでの成果と課題を踏まえ、新学習指導要領の基本方針を受けて、改訂の基本的な考えとして、次の3つを挙げている。

- ・音楽に対する感性を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさなどを見いだしたりできるよう内容の改善を図る。
- ・音や音楽と自分との関わりを築いていけるよう、生活や社会の中の音や音楽の働きについての意識を深める学習の充実を図る。
- ・我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わうことができるよう、和楽器を含む我が国や郷土の音楽の学習の充実を図る。

また、音楽科で育成を目指す資質・能力を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」とし、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理した。さらに「見方・考え方」を働かせた学習過程を通じて、資質・能力を育成する重要性についても示された。

音楽科の「見方・考え方」は、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点でとらえ、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けることである。

(2) 平成30年度岩手県教育研究大会宮古大会及び本校の研究から

平成30年度岩手県音楽教育研究大会宮古大会では、表現や鑑賞の活動を通して、音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を感じ取り、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりすることができる力を育成することで、児童一人一人の豊かな情操が養われること、また、相手の考えに触れ、共有したり共感したりすることにより、子ども一人一人の音楽を感じる心を広げ、歌ったり楽器を演奏したり、音楽をつくったり、音楽を聴き深めたりする力を高めることができると考え、「心に音楽のよるこびを～つなげよう 深めよう 広げよう～」を研究主題と掲げ、「思いや意図をもって表現したり鑑賞したりする子ども」「相手と一緒に音楽活動をするに喜びを感じる子ども」の育成を目指すこととした。

このような児童の姿を実現していくためには、音楽的な見方・考え方を働かせ、どのように表現していきたいか、思考・判断しながら、音楽表現を深める学習活動の展開が必要であると考え。

また、本校は平成24年度から復興教育推進モデル校に指定され、東日本大震災津波からのふるさ

との復興を担う人づくりをテーマに、国語科・社会科・体育科・特別活動を中心に「伝え合う・かかわり合う・助け合う・つなぎ合う」を目指して研究を進めてきている。

以上のことから、県音研宮古大会の取組みと関わらせながら、「思いや意図をもつための工夫」と「思いや意図を音楽表現につなげるための工夫」を行い、思いや意図を音楽で表現できる児童を育てる学習指導の在り方について明らかにしようと考え、本主題を設定した。

2 研究の基本的な考え

(1) 「自分の思い」とは

児童が知覚・感受したことを基に、どのように音楽で表現するかを考え、「こんな音楽にしたい。」「～な感じにするために～を工夫しよう」という思いや意図のことである。児童に思いや意図をもたせるためには、音楽を形づくっている要素を児童が気付き、音楽のよさや面白さを感じ取ることができようにする必要がある。そのために、指導者があらかじめ児童に何を学ばせたいのかをはっきりさせ、題材を貫いて扱う音楽を形づくっている要素を明確にする。

(2) 「音楽で表現できる」とは

児童が「このように表現したい。」という思いや意図を実際に音楽表現につなげることができることである。そのために、児童が音や音楽で試行錯誤できる場、音楽表現を実現できる技能を習得できる場、学び合いを通して音楽表現がよりよくなっていくことを実感できる場が必要となる。これら3つの場を保障すること、また3つの場を関連付けることで、自分の目指す音楽表現の質が高まっていくと考える。

3 研究の目的

「思いや意図をもつための工夫」と「思いや意図を音楽表現につなげるための工夫」を講じることを通して、思いや意図をもち、音楽で表現できる児童を育てる学習指導の在り方を明らかにしていくことを目指す。

本研究は以下のような仮説を立て進めていく。

創作・歌唱の学習において、「協働的な学び」と「価値付ける場の設定」を取り入れるとともに、以下のような学習支援の工夫を行うことで、重や意図を音楽で表現できる児童を育てることができるであろう。

- ・思いや意図をもつための工夫
- ・思いや意図を音楽表現につなげるための工夫

4 研究の内容

(1) 3つの場の設定

- ①音や音楽で試行錯誤できる場
- ②音楽表現を実現できる技能を習得できる場
- ③学び合いを通して音楽表現がよりよくなっていくことを実感できる場

(2) 3つの場における具体的な手立ての工夫

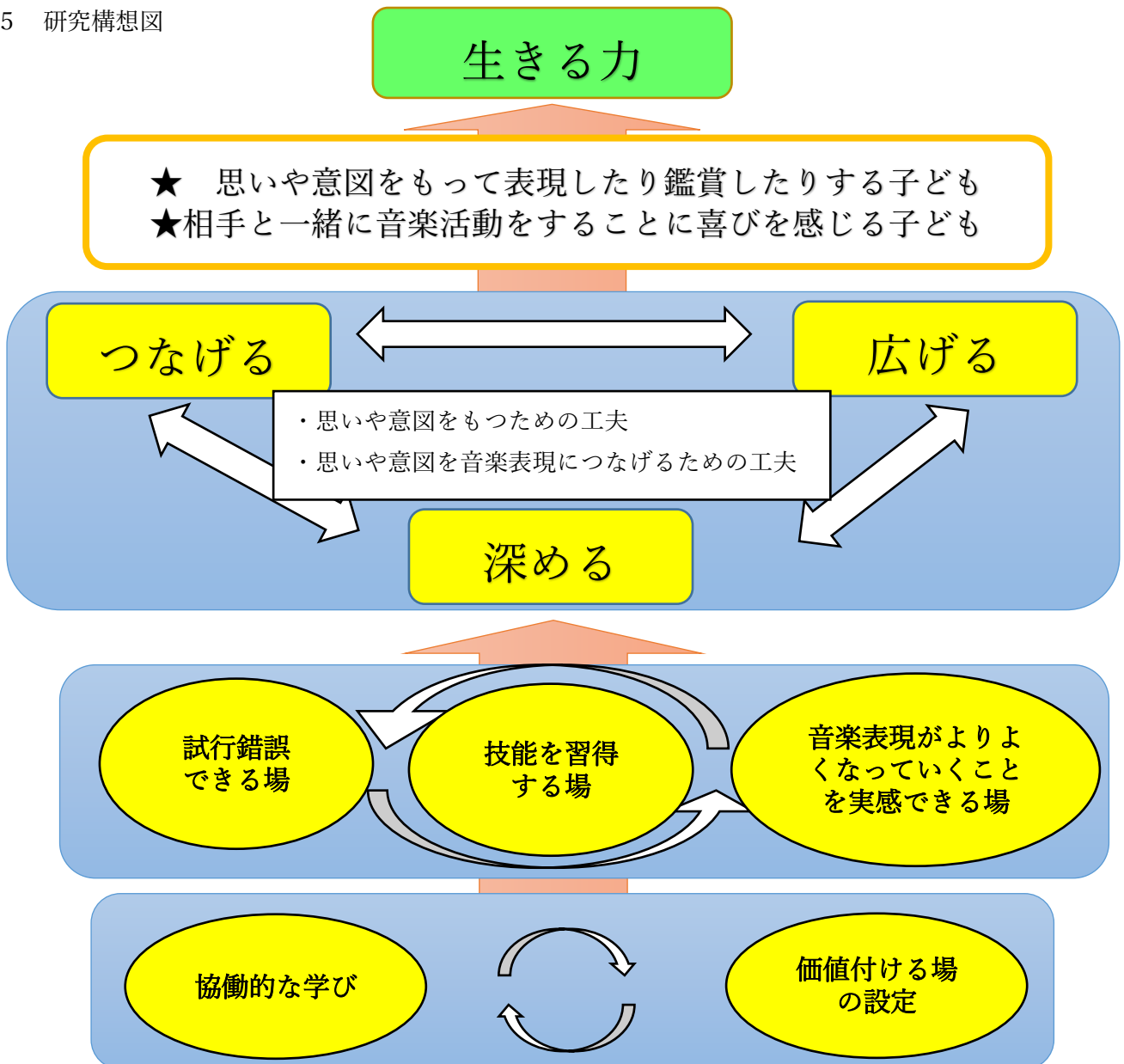
①協働的な学び

協働的な音楽活動は、知覚・感受したことを交流し、理解を深めさせたり共感させたりすること、共に学んで創り上げる喜びや合わせる楽しさを味わわせることが大切である。そして、「音楽表現に対する思いや意図を言葉で表して交流すること」「実際に歌ったり演奏したりして音を試すこと」活動を必要に応じて往還させながら、友達と交流することで自分の考えを深めることができる。

②価値付ける場の設定

児童が自らの思いや意図をもって音楽表現の仕方を工夫したり、音楽を聴いて積極的にそのよさや美しさを味わったりするような学習活動を進めるために、教師が児童の音楽表現に対して価値付けをし、児童の学びをより深めたり、児童自身が音楽のどこがよかったのか、なぜそのように感じたのかを、音楽を形づくっている要素や音楽の特徴と関わらせてとらえられるようにすることが大切である。

5 研究構想図



III 研究の実際とその考察

1 4年 創作「繰り返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくろう」の実践（事前授業）

(1) 題材について

本題材は、これまで身に付けてきた拍の流れや拍子、リズムに対する感覚を伸ばし、それを音楽に表現する能力を伸ばすことをねらいとしている。教材「言葉でリズムアンサンブル」は、言葉を拡大したり縮小したりして言葉のリズムをつくり、それを問いと答えにしたり、反復したり、重ねたりして、グループで8小節のリズムアンサンブルをつくっていく学習である。声によるリズムアンサンブルなので、楽器が苦手な児童でも取り組みやすい題材である。

(2) 児童について

児童は、3年生での「手拍子でリズム」の学習で、「三三七拍子」のリズムを基に、反復と変化を生かしてまとまりのあるリズムをつくる経験をしてきた。また、自分のつくったリズムと友達のつくったリズムをつなげて一つのリズムをつくったり、みんなで模倣して一緒に打ったりすることで、拍の流れに対する感覚を身につけることができた。しかし、リズムはつくれても、拍の流れに合わせて上手くリズムを打てない児童も数人もおり、支援の仕方や指導の工夫が必要である。

(3) 指導について

本題材は、学習指導要領のA表現(3)ア「即興的に表現することを通して、音楽づくりの発想を得ること。」イ「音を音楽へと構成することを通して、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。」にかかわり設定した。そのねらいに即して、音楽を形づくっている要素のうち、「リズム、音の重なり、反復、問いと答え」の要素に絞り、指導事項と共通事項の明確化を図った。

学習過程においては、学習のはじめに、1つの言葉を素材として、そのリズムを拡大させたり縮小させたりしながら、拍の流れにのって言葉を唱える活動をする。その中で、リズムアンサンブルの技として「反復」「問いと答え」「音の重なり」「変化」の共通事項を取り上げ、その技を使ってリズムアンサンブルをつくる活動に広げていく。

2時間目にはグループ活動を位置づけ、友達とリズムをつないだり重ねたりして、新たな音楽をつくる活動を行うこととした。その際、テーマを「4年1組の自慢できるところ」をテーマにし、言葉を考えたりリズムアンサンブルを組み立てたりしていく。

そして3時間目には、それぞれのグループのリズムアンサンブルを聴き合うとともに、さらに学級として1つの大きなアンサンブルを作る活動を取り入れる。こうすることで、1時間目に行った単なるリズムアンサンブルから、思いや意図を反映したリズムアンサンブルへの変容や児童自身の学びの深まりを感じさせられると考えた。

(4) 研究とのかかわり

①【音や音楽で試行錯誤できる場】の設定

リズムアンサンブルをつくる過程で、グループごとに対話や試行錯誤を重ねながら、自分たちの思いや意図にあうリズムアンサンブルをつくり上げる。
--


②【協働的な学び】の具体的な手立て

ラミネート加工したワークシートを使い、作ったリズムアンサンブルを試しながら書き込んだり直したりすることで、自分たちの思いや意図に合うように作り変えていけるようにする。

③【価値付ける場の設定】の具体的な手立て

児童がお互いのリズムアンサンブルの工夫しているよさを見つけ伝えたり、教師がそのよさを認めたりする場を設定し、活動の価値付けをする。

(5) 授業の実際

段階	主な学習活動と主題に迫るための支援	教師の発問 (T) や児童の反応 (C) ◇研究の手立てとかかわって
導入	<p>1 Warm-up (8分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムアンサンブルをする。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【思いや意図をもつための工夫】 前時の学習を想起させ、「4年1組の自慢」をテーマにしたリズムアンサンブルを作ることを確認する。</p> </div> <p>2 学習課題を把握する。</p> <div style="border: 2px solid orange; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>リズムアンサンブルの技を使って、班で4小節のリズムアンサンブルをつくろう。</p> </div>	<p>◇研究の手立てとかかわって</p> <p>○前時で作ったリズムパターンを組み合わせながら、全員でリズムアンサンブルをした。その際、リズムアンサンブルを可視化して提示し、音楽の仕組みを再度意識させながら行った。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>T:初めはこれを使いましょう。2小節目は何を使いたい? C:全部4分音符を使いたいです。 T次は何の技を使おうかな? C:問いと答えがいい。 C:じゃあ、カのパターンを使いたいです。 C:問いと答えだから、カを2小節目の下に入れば良いと思います。</p> </div> <p>○ 短い時間での活動であったが、即興的なリズムアンサンブルを作ることができ、本時の学習の見通しできた。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>T:テーマを決めましたよね。 C:4の1のいいところ。 C:自慢できるところです。 T:班でどんな言葉を考えましたか。 C:1班は「みんなで」と「チャレンジ」です。 C:僕たちは「スマイル」と「パワフル」です。</p> </div>

展開 3 「反復」「問いと答え」「音の重なり」「変化」を使って、班ごとに8小節のリズムアンサンブルをつくる。(25分)

① 1人でリズムをつくる。

音や音楽で試行錯誤できる場

② つくったリズムを組み合わせて、班でリズムアンサンブルをつくる。

【図1】

◇【協働的な学び】

図1は、グループで相談して声を出して試したり、さらに工夫して書き直したりすることができるよう、ラミネート加工したワークシートである。

音の重なり		変化		くりかえし		問いと答え		変化		音の重なり	
1しょうせつ		2しょうせつ		3しょうせつ		4しょうせつ		5しょうせつ		6しょうせつ	
みん なで	•	みん なで	•	•	みん なで	みん なで	•	•	みん なで	•	みん なで
•	なか よく	•	なか よく	•	なか よく	なか よく	•	•	なか よく	•	なか よく

変化		問いと答え		音の重なり		くりかえし		変化		音の重なり	
1しょうせつ		2しょうせつ		3しょうせつ		4しょうせつ		5しょうせつ		6しょうせつ	
みん なで	•	みん なで	•	みん なで	•	•	みん なで	•	•	みん なで	•
•	なか よし	•	なか よし	•	なか よし	なか よし	•	•	なか よし	•	なか よし

【思いや意図を音楽で表現するための工夫】

グループごとに決めた言葉をもとに、ラミネート加工されたワークシートにリズムを書き込んだり直したりすることで、リズムを可視化したり共有したりしながら試行錯誤できるようにする。

◎【評価】音楽表現の創意工夫

言葉の語感を感じ取り、拍の流れのにりながら、「反復」「問いと答え」「音の重なり」「変化」を生かしたリズムアンサンブルをつくっている。
(グループ活動・演奏聴取)





C: 初めは問いと答えにして、最後の方で音の重なりをいれたら、盛り上がるようになりそうだよ。

C: 昨日やった時、最後を同じリズムにすれば、終わった感じになっていたよね。

C: みんなの考えをいれたいよね。

C: じゃあ、みんなのリズムを上手にいれるためにどうしたらいいかな。

	<p>4 全体で班ごとのリズムアンサンブルを聴き合う。(7分)</p> 	<p>○活動を指導案上では②と③と分けたが、児童らは②と③を往還しながら活動していた。「作って試す」の繰り返しが自然とでき、どのチームも時間の中で完成させることができた。</p> <p>◇【価値付ける場の設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表したり聴いたりし、お互いの音楽のよさを認め合ったり、聴き合ったりした。 <p>T：この班のリズムアンサンブルのよいところはどんなところですか。</p> <p>C：2小節目の伸ばすところがきいていて面白かったです。</p> <p>C：最初と最後の重なり合っているところがいいと思います。</p> <p>C：最後のスマイルとミラクルが重なって混ざり合っていたところ。</p> <p>C：最後の重なりが面白かった。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 振り返り (5分)</p>  <p>・次時学習内容を把握する。</p>	<p>(本時で発表した児童)</p> <p>C：今日は4小節のリズムアンサンブルをしました。発表はできなかったけれど、ちゃんといろいろな技を使ってよかったです。1班のテーマは「みんなでチャレンジ」です。次の時間は発表するので、頑張りたいです。</p> <p>C：いろいろなリズムを使ったり、いろいろな技を使ったりできました。6班はみんなでなかよしという言葉が、つながるようになっていました。面白かったし、成功してよかったです。</p>

(6) 考察

① 協働的な学びについて

どの児童の思いや意図をもちやすいように、「自分の学級の自慢できるところ」をテーマに創作を行った。自分の学級のこともあり、どの児童も最後まで思いをもって、意欲をもって学習する様子が見られた。

本時で使用したラミネート加工したワークシートは、児童らの活動の様子から、容易に書き直しができるため試行錯誤しやすいものであったと思われる。全部のグループで声を出したり手拍子をしたりして、リズムを共有しながら試行錯誤することができていた。また、それぞれの小節の上には、リズムアンサンブルの技として取り扱った共通事項(音の重なり、反復、問いと答え、変化)のどれを使った

のかが分かるように、技の名前が書かれたカードを貼らせた。児童は、リズムアンサンブルをつくる中で、「ここは問いと答えにしようよ。」「変化させてずらすようにすると面白いよ。」などと、共通事項を意識した姿が見られ、考えたリズムアンサンブルと共通事項とを意識しながら活動する上で、大変有効であったと考える。

② 価値付ける場の設定について

全体で発表する場面では、時間の関係上、全てのグループの発表は行えなかった。しかし、どのグループも各々の活動が有効に進み、十分にリズムアンサンブルに取り組めたことで、全てのグループが発表への意欲を示した。これは、相手と一緒に音楽活動をすることに喜びを感じる子どもの姿となっているといえる。

発表では、リズムアンサンブルを書き込んだワークシートを見せながら、演奏を披露した。発表する側は確かめながら演奏できること、聴く側は使った技（共通事項）や考えたリズムアンサンブルを視覚的に捉えられることができ、視覚化されたワークシートは全体で共有する上で、相互に有効な手段であった。

以下は、まとめて児童が書いた振り返りの一部である。振り返りからは、他のグループの発表に対して以下のようなことが書かれていた。

- ・ 2班は、自分たちが考えつかなかった音を伸ばす工夫をしていました。すごいと思いました。
- ・ 3班の発表をきいて、最後の小節の音の重なりを重ねると、終わった感じがすると思いました。次の発表では真似してみたいです。

また、自分自身の学びに対しては以下のようなことが書かれていた。

- ・ 1班では、「みんなで」と「チャレンジ」という言葉を使って、最初は2つの言葉を分けて、最後は同じリズムにして、終わりという感じを出すことができました。次は違う言葉でやってみたいです。
- ・ 1しょうせつ目と2しょうせつ目で音の重なりを使って、楽しくなるようにつなぎました。上手にできたと思います。
- ・ 自分たちのリズムアンサンブルのよいところは、1こずつずらしてききやすくしているところです。ずらすとおもしろいハーモニーになるので自分たちの班でも使ってみました。

振り返りからは、他のグループのリズムアンサンブルのよさに気付いたり、自分たちのリズムアンサンブルでも真似してみたいとさらに学びを深めたりする児童の意識が読み取れる。また、自分たちの作ったものに対して自信をもっている姿もみてとれた。

①、②のことから、本時では「協働的な学び」と「価値付ける場の設定」が有効に働き、思いや意図をもって音楽で表現する児童の姿になっていたと考えた。

その一方で課題も挙げられる。「つくる」活動途中では、活動自体への意欲に反して、どのようにつくれるか迷うグループが見られたことも事実である。自分たちの表現したい思いや意図をリズムアンサンブルの表現に生かすという意識が弱かったためと考える。さらに技能面の支援として、「つ

くる」ことの助けになるように、上手に活動を進めているグループの演奏発表を早めに行い、イメージをつかませるような働きかけが必要であった。

また、グループで音楽をつくることはできたが、教師側の指導事項のとらえが曖昧だったこと、教師側がよいリズムアンサンブルのモデルが思い描けないまま学習が進めてしまったことで、「技をたくさん使いたい」「技をたくさん使えたからよいリズムアンサンブルだ」という児童の思考も見られ、的確な活動や演奏の価値付けができなかった。

以上のことを踏まえ、岩手県音楽教育研究大会宮古大会では、「児童の思いや意図を生かした協働的な学びの意識をもたせること」「根拠をもって価値付けることができる工夫と場の設定をすること」について、より考えていくこととした。

2 4年 歌唱・鑑賞「日本の音楽の特徴を感じ取り、民謡に親しもう」(研究大会)

(1) 題材について

本題材は、民謡「ソーラン節」「南部牛追い歌」を教材に、歌唱と鑑賞の2つの分野を関連させながら学習を進めていくものである。

鑑賞教材では、鯨を船に汲み上げるときに歌われた「ソーラン節」と、牛方が荷を運ぶ道中で歌った「南部牛追い歌」を、仕事の様子と民謡の特徴のかかわりを感じ取りながら聴く。民謡の声の出し方や節回しに気付いたり、拍節感のある民謡と拍節感のない民謡を聴き比べたりしながら聴くことができる教材である。さらに、鑑賞の学習を生かし、聴き取った民謡の音色や拍の流れ、旋律の特徴を生かして表現することで、昔から受け継がれてきた民謡に親しむことをねらいとしている。

(2) 児童について

児童は、低学年においてはわらべ歌を通して、我が国の音楽に触れてきている。また、本題材に関わる実態として、第3学年で「神田囃子」「花輪ばやし」「小倉祇園太鼓」の鑑賞の学習で、祭囃子の特徴である笛、太鼓、鐘などによる曲想と、テンポやリズムなどの変化を感じ取って聴くことができた。また、自分たちの地域にもお囃子はあるのではないかと興味を広げることができた。今回取り上げる民謡については、実生活で触れる機会はほとんどない。また、実際に民謡を歌ったことがある児童はおらず、民謡の特徴を生かした表現をすることは初めてである。

(3) 指導について

本題材は、学習指導要領A表現(1)イ「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。」ウ「呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。」B鑑賞(1)イ「音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。」ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。」にかかわり設定した。そのねらいに即して、音楽を形づくっている要素のうち、「音色、拍の流れ、旋律、強弱、速度」の要素に絞り、指導事項と共通事項の明確化を図った。

鑑賞教材として取り扱う「ソーラン節」と「南部牛追い歌」は、どちらも仕事から生まれた歌である。1、2時間目には、鯨を船に汲み上げるときに歌われた「ソーラン節」と牛方が荷を運ぶ道中で

歌った「南部牛追い歌」を、その仕事の様子と民謡の特徴のかかわりを感じ取りながら聴く活動を行う。2つを比較聴取することで、民謡の声の出し方や節回しに気付いたり、拍節感のある民謡と拍節感のない民謡を聴き比べたりすることができる。

さらに、3時間目は、鑑賞の学習を生かし、岩手県の民謡である「南部牛追い歌」に着目し、聴き取った民謡の音色や拍の流れ、旋律の特徴を生かして表現する活動につなげる。鑑賞と表現を関連させることで、曲の理解や表現の仕方が深まり、民謡により親しむことができると考えたからである。

そして4時間目には、南部牛追い歌の表現を練り上げ、「宮小4年生南部牛追い歌発表会」をする。

聴くことと表現することを往還的に指導することで、より楽曲への理解や児童の表現の仕方が深まったり高まったりすると考える。

(4) 研究とのかかわり

①【音や音楽で試行錯誤できる場】【音楽表現がよりよくなっていくことを実感できる場】の設定

- ・お互いの考えを交流したり、その様子を実際に身体表現したりしながら、仕事の様子のイメージや牛方の思いを深めている。
- ・グループで民謡を聴き合ったり、アドバイスをしたりし、声の出し方や節回しが民謡らしくなっているかを考えたり、より民謡らしくなるように表現を工夫したりしている。

②【協働的な学び】の具体的な手立て

- ・児童が仕事の様子のイメージや牛方の思いをもてるように、自分の考えを深めさせる。
- ・グループ学習の場面を設定し、友達と聴き合ったりアドバイスをしたりすることで、より「民謡らしさ」を感じ取ったり、新たな表現の仕方を考えたりできるようにする。

③【価値付ける場の設定】の具体的な手立て

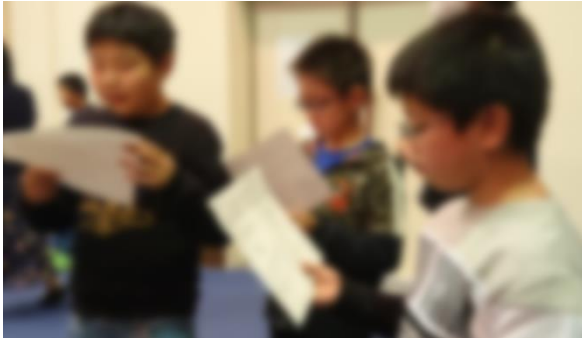
- ・児童が自分なりのイメージや思いを膨らませたり、思いを意欲的に表現したりさせるために、体を動かしたり、旋律線を描いたりする言語活動を取り入れる。
- ・児童が自信をもって自分の表現ができるように、児童がお互いに「声の出し方」「節回し」「強弱や速度」の工夫をしているよさを伝えたり、教師がそのよさを認めたりし、活動の価値付けをする。

(5) 授業の実際

段階	主な学習活動と主題に迫るための支援	教師の発問 (T) や児童の反応 (C) ◇研究の手立てとかかわって
導入 (10分)	<p>1 ウォーミングアップの活動をする。 ・全員で「ソーラン節」を歌う。</p> 	<p>○鯨漁をしている時に歌われていたことを想起し、体を動かしながら歌った。</p> <p>T: 民謡の勉強をしていたね。北海道の民謡は何という民謡ですか。 C: ソーラン節です。 T: 何をやる時に歌ったのですか。 C: 魚を捕る時。 C 鯨漁です。漁師が歌っていました。 T: どんな風に漁をするんだろうね。 C: (網を引っ張る動作) T: じゃあ、動きを入れて歌ってみよう。</p>
	<p>2 学習課題を把握する。</p> <p>試行錯誤できる場</p> <p>・CDに合わせながら、全員で「南部牛追い歌」を歌う。</p>  	<p>T: 南部牛追い歌は何をする時に歌ったのですか。 C: 牛を引くとき。 C: 牛を使って、盛岡に年貢を運ぶ時に。 T: 牛を使って何をもっていくの? C: 荷物 T: みんなでイメージしながら歌ってみましょう。</p> <p>◇協働的な学び</p> <p>○牛を使って荷物を運ぶ時に歌われていたことを想起し、自由に体を動かしながら歌ったことで、前時の学習の想起や自然と学習への準備ができた。</p> <p>T: 今、〇〇さん、どんな動きをしたの? C: こうやって(網を引っ張るような) T: どうしてそんな動きをしたの? C: 重いからです。 T: 何か重い? C: 牛です。 T: それ以外の動きをした人は? C: (おしりをたたくような動き) T: みんなが牛方なら、どんな気持ちだと思う? C: 早くいってくれという気持ち。 C: 頑張って牛を引っ張っていくという気持ち。 C: もう少しだから頑張れという気持ち。 (数人が頷きながら)</p>

		<p>◇価値付ける場の設定</p> <p>○なぜそのような身体表現をしたのかを聞くことで牛方の仕事の様子やそのときの気持ちを考えさせるとともに、個々の考えを共有することができた。</p> <p style="border: 2px solid orange; padding: 5px; text-align: center;">「4年1組民謡発表会」に向け、「南部牛追い歌」を民謡らしく歌おう。</p>
<p>展開 (28分)</p>	<p>3 学習課題に取り組む。</p> <p>(1) 民謡らしさを考え、工夫するポイントを確認する。</p> <div data-bbox="240 636 807 920" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>民謡らしくするポイント</p> <p>①声の出し方 なまり のどから</p> <p>②のばす音をゆらす 節回し</p> <p>③仕事の様子や 牛方の気持ち 強弱 速さ 音の長さ</p> </div> <p>(2) 「南部牛追い歌」でどんなことを伝えたいかを考え、表現の工夫を考える。</p> <div data-bbox="233 1055 815 1323" style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>【思いや意図をもつための工夫】</p> <p>表現したい牛方の様子や気持ちを考え、それが伝わるようにするために、「民謡らしいポイント」の何を工夫するかを、段階的に考えさせる。</p> </div> <div data-bbox="268 1335 791 1653" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="268 1659 791 1977" data-label="Image"> </div>	<div data-bbox="842 483 1520 857" style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>T: 民謡らしくするために、どんな風に歌えばいいのかな。</p> <p>C: 節回しです。</p> <p>T: 節回して何ですか。</p> <p>C: 音を揺らすことです。</p> <p>T: これをやれば民謡らしくなりそうなんだね。</p> <p>C: 声の出し方もです。</p> <p>C: のどから出すような力強い出し方。</p> <p>C: なまりもあるといいと思います。</p> </div> <p>○以上のようなやり取りから、本時の民謡らしくするポイントを確認した。</p> <p>○活動が個々になり、児童によって活動の速さが変わってくると考え、活動の流れを示してから活動に入った。こうすることで、限られた時間の中でも個々で進めることができた。</p> <div data-bbox="842 1155 1520 1603" style="border: 1px solid gray; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>T: ○○君は、こんな風には書いています。</p> <p>C: 牛方の頑張っている様子をつたえるために、「サーハーエー」に向けて強くしていきます。</p> <p>T: ○○さんも教えてくださいませんか。</p> <p>C: 大変だけど頑張ろうという気持ちを出すために、声をのどから出して、母音をゆらすようにします。</p> <p>T: 母音ってわかりますか。</p> <p>C: うーん。</p> <p>T: 「サー」と伸ばした時の「アー」のことです。つまり、節回しのことだね。</p> </div> <div data-bbox="842 1615 1520 2011" style="border: 1px solid gray; padding: 10px;"> <p>◎【評価】音楽表現の創意工夫 (ワークシートへの記入)</p> <p>民謡の音色、拍の流れ、旋律の特徴を感じ取って、声の出し方、節回し、強弱や速度などの表現の仕方について工夫している。</p> <p>【方策】</p> <p>友達の考えを参考にしたり、一緒に歌いながら工夫を書き込んだりする。</p> </div>

(3) 考えた工夫を歌って確かめる。



(4) グループで紹介し、聴き合う。

技能を習得する場・音楽表現がよりよ
くなっていくことを実感できる場

・友達と練習をしたり、お互いにアドバイスを
したりする。



○「こんなことを伝えたい」という思いはあっても、その表現の仕方に困っている児童のために、困っている子に表現の仕方を紹介する時間をとった。

○児童は、ワークシートを基に、自分の表現を確かめることができた。その際、指示をしなくても近くの友達と聴き合う児童や、試してまた表現の仕方を書き直すなど、自分から「友達」や「音楽」と関わり合う姿が見られた。

【思いや意図を音楽で表現するための工夫】

民謡らしいポイントの工夫を、ワークシートに視覚的にわかるように書き込む。その際の書き込みの仕方を、前単元までで活用した書き方をするこで、既習を生かせるようにする。児童が実際に書き込んだ工夫は、考察で示す。

◇協働的な学び

友達と聴き合ったりアドバイスをしたりする場面で、単なる発表会にならないように、「歌い手は、自分の思いと工夫したポイントをしっかり伝えてから歌うこと。」「聞き手は、表現から歌い手の思いや意図が伝わったかを聴き、アドバイスをすること」の2点を確認したことで、認めたりアドバイスをしたりする姿が見られ、次のアドバイスをもとに練り上げる活動につながった。

【グループ1】

C：最初は弱くして、だんだん強くしながら歌います。

C：強弱がよかった。

C：民謡らしかったけれど、もっと強い所を強く歌ったらいいと思います。

【グループ2】

C：牛を頑張って引っ張る様子を伝えるために、なまりを使って最後は伸ばします。

C：民謡らしいはった声でよかったです。

C：強弱がしっかり伝わってきました。

C：節回しをもう少し揺らせばいいと思います。

	<p>(5) 全体で自分の工夫した「南部牛追い歌」を紹介する。</p> 	<p>◇価値付ける場の設定</p> <p>児童がお互いに「声の出し方」「節回し」「強弱や速度」の工夫をしているよさを伝えたり、教師がそのよさを認めたりし、活動の価値付けをした。</p> <p>T: では、最後にみんなの前で発表してもらいましょう。</p> <p>C: 牛方の気合が伝わるように、声をのどから出して歌います。 (聴いている児童には5段階で評価させ、指導者側が見取って発言させた。)</p> <p>T: どうして5だと思いましたか。</p> <p>C: 気持ちも伝わってきたし、節回し強弱がよくできていたからです。</p> <p>T: どうして4なの。</p> <p>C: 「サーハーエー」がもう少しできそうだと思ったから。</p> <p>【評価】音楽表現の技能(演奏聴取)</p> <p>民謡の音色や旋律の特徴を生かし、声の出し方、節回し、強弱や速度などのポイントを工夫して歌っている。</p> <p>【方策】</p> <p>教師が児童の考えた節回しを歌ってみたり、一緒に歌ったりする。</p>
<p>まとめ (7分)</p>	<p>4 本時の振り返りをする。</p> <p>(1) 振り返りをし、次時の学習内容を把握する。</p>  <p>(2) 全員で、自分の工夫した歌い方で「南部牛追い歌」を歌う。</p>	<p>(本時で発表した児童)</p> <p>C: 今日の発表では、○さんの発表がよかったです。なぜかというところ、(「サーハーエー」)のところを少しずつ大きくしているのが伝わってきて、頑張っている感じがしたからです。</p> <p>C: 初めはうまく工夫ができなかったけれど○さんにアドバイスをもらって、表現したい速さで歌うことができました。</p> <p>C: CDなしで歌ってみて、曲と表現を合わせて歌うことが難しかったです。友達は工夫できている人がいてすごいと思いました。</p>

(6) 考察

① 協働的な学びについて

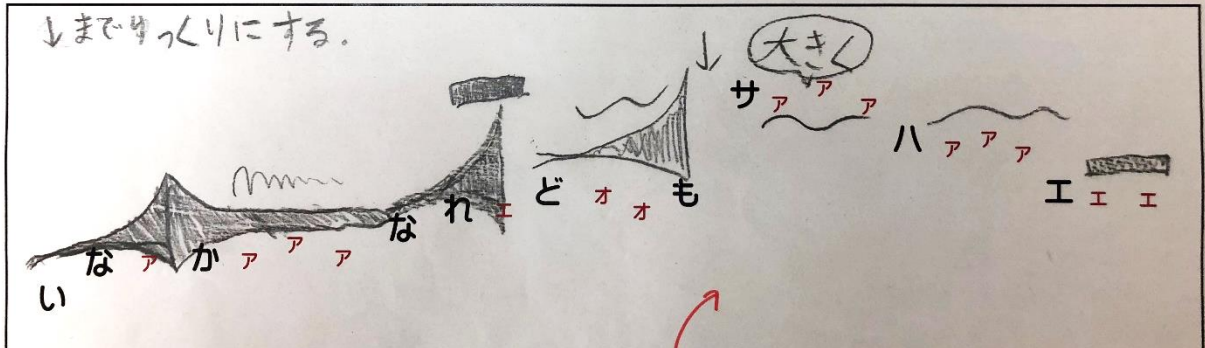
授業の導入場面での身体表現しながら「南部牛追い歌」を歌う活動では、児童が牛を引っ張る仕草や牛を撫でる仕草など、思い思いの動きをしており、その後の学習過程の中で牛方の仕事の様子やその時の気持ちを想像していくための有効な手段であった。また、初めは戸惑っていた児童も、周りを見ながら表現することができ、協働的な学びの場とすることができた。

以下が「自分が表現したい思いや意図」と「表現の仕方（民謡らしく歌うポイント）」を書き表したワークシートである。

① 「表現したい様子や気持ち」と「表現の仕方」を書きましょう。

かんはっているといふ 変わるように、速さをゆっくりにして歌って、でも、少しなからかん
からつかれている 休んでいるといふことで、のびしを強くする。

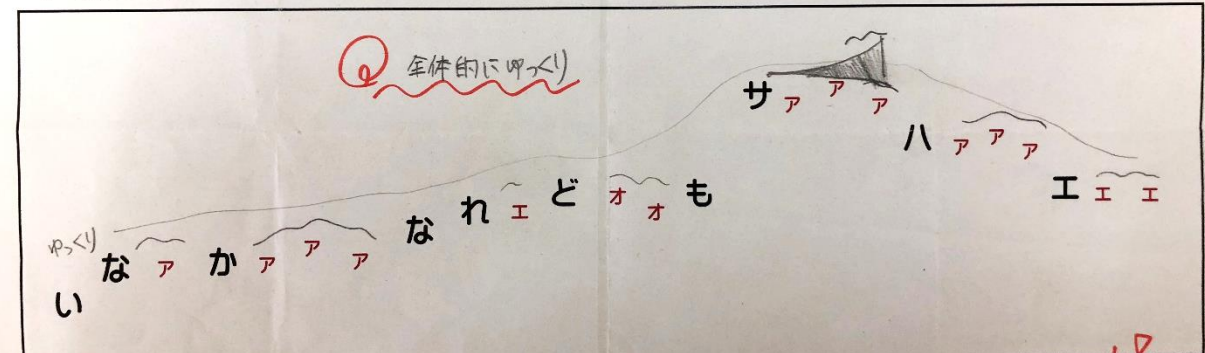
② 考えた工夫を、自分が分かるようにメモしましょう。



① 「表現したい様子や気持ち」と「表現の仕方」を書きましょう。

牛をひっぱっていくのが大変でつかれているという様子から、ゆっくりに歌って、
節回しをつける。あとは、牛ちのがかんはっている様子を伝えたいので、強弱をサの字につける

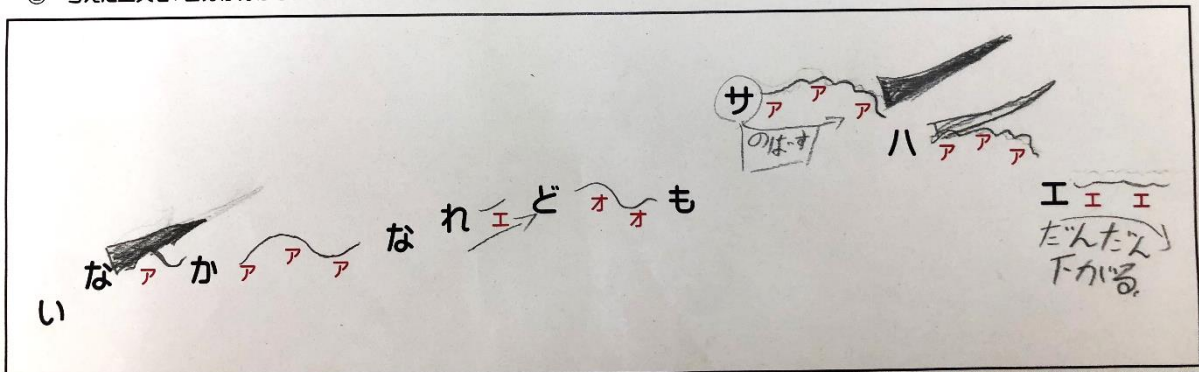
② 考えた工夫を、自分が分かるようにメモしましょう。



① 「表現したい様子や気持ち」と「表現の仕方」を書きましょう。

牛方の人か歌っているから仕事をかんはるぞといふ気持ちのほす所の、
節回しあ強弱を強くしたり弱くしたりしてうた。全体時にゆらす。

② 考えた工夫を、自分が分かるようにメモしましょう。



ここに挙げたのは一部であるが、どの児童も「思いや意図」を音楽表現につなげられていることがワークシートから読み取れた。また、事前授業での創作での学び同様に視覚的に音や音楽を表すことで、言葉だけでは伝えきれない表現したい音楽が整理できたり、他者との学びの際に共有したりできるよさがあった。

グループ活動では、単なる発表会にしないようポイントを提示したことで、活動の目的を児童が意識しアドバイスをしあうことで、自信をもって歌えることはもちろん、歌い方自体も変化している児童が多かった。

② 価値付ける場の設定について

事前授業での課題点を踏まえ、本時では、児童が「思いや意図」と「音楽表現」をつなげることを意識して学習していけるように指導した。

全体での発表の場面では、「(思いや意図)を伝えたいので、(音楽表現)の工夫をします。」というように、「思いや意図」と「音楽表現」を伝えさせてから発表させたことで、聴く側が発表者の「思いや意図」の視点をもって聴き、評価することができた。

以下は、まとめて児童が書いた振り返りの一部である。振り返りからは、友達の発表に対して以下のようなことが書かれていた。

- ・ 班の友達が、牛をはげますためにどんどん強くしていく工夫をしていました。練習できいた時、それが伝わってきたのですごいと思いました。
- ・ 友達のをきいて、速さをゆっくりして歌うと、牛や牛方がつかれている感じがすると気付きました。

また、自分自身の学びに対しては以下のようなことが書かれていた。

- ・ 疲れているけれど、頑張っていることを伝えるために、速さをゆっくりして歌うようにしました。アドバイスでもっとゆっくりした方がいいと言われて練習したら、自分でも少しできるようになったと思います。
- ・ 仕事をがんばるぞという気持ちを伝えるために、力強く歌うことを意識しました。友達の発表をきいて、自分の声はまだ足りないと思ったので、〇〇さんを目標に頑張りたいです。

振り返りからは、「思いや意図」と「音楽表現」を関わらせて練習したり、聴いたりできている様子が読み取れた。また、表現が十分にできていなくても、音楽表現の高まりがより自分の思いや意図を伝えられるということに気付いていることも読み取れた。

IV 成果と課題

1 研究の成果

本研究では、「自分の思いを音楽で表現できる児童の育成」を目指し、創作・歌唱の学習において実践を行った。この2つの実践から、以下のような児童の姿が見られた。

- 単元を通し、児童は自分の思いや意図をもち、さらに協働的な学習を通して深めながら、音楽表現の実現に向けて、主体的に音楽に関わり、音楽をつくったり表現したりすることができた。
- 自分の表現する音楽が思いや意図にそった音楽表現になっているか、グループの友達と聴き合ったり試したりしながら、試行錯誤することで、より深い学びにすることができた。
- 全員で音楽をつくる経験を通して、自分の思いや意図を表現できたこと、友達と協働して音楽をつくり上げる喜びを感じることができた。

具体的には、以下のことについて有効性を見出すことができた。

(1) 指導事項と共通事項の明確化

教師側が、何を学ばせたいかという「指導事項」と、音楽を形づくっている要素である「共通事項」を明確にしたことで、学習過程において目指す児童の姿やゴールをしっかりイメージすることができた。このことにより、1時間ごとの指導すべき内容やその中での支援や工夫をはっきりすることができた。

(2) カリキュラムの設定や工夫

本研究では、特に歌唱の学習において、「鑑賞で聴き取ったことを歌唱の表現で生かす」という意図的な題材構成に取り組んだ。本来、聴いてよさを味わうところを、「聴くこと」と「表現すること」を双方向で行うことで、「鑑賞で楽曲のポイントを聴き深める」「表現してさらに聴き方が変わる」「聴き方が変わることで表現がさらに深まる」という、楽曲への理解・音楽表現の高まりにつながった。また、新学習指導要領でも取り上げられている「我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わうこと」についても、今回の取組みは有効であったと考える。

(3) 協働的な学び

児童が思いや意図をもち、それを音楽表現に生かすために、個人やグループで十分に活動できる場の設定が有効であった。活動の場では、自分の思いや意図を音楽で表現できているかを自分自身で試行錯誤する場面や、友達と聴き合ったりアドバイスしあったりして、よりよい音楽にするための協働的な学びの場面が有効であった。その中で、本来目には見えない音楽を視覚化して、共有できるようにすることは、子ども達が主体的に学習する上で有効な手立てだった。

(4) 価値付ける場の設定

児童がよりよい音楽表現を目指したり、自分の音楽表現を広めたりする原動力の1つには、友達や教師からの自分の音楽表現を認められたという思いだと思う。本研究では、価値付ける場として全体での発表の場を設定したが、子ども達にとっては、グループ学習の場も自分の音楽表現を認められる場の1つとなっていた。また、音楽表現の根拠となる共通事項を子ども達が理解し、お互いの音楽表現の工夫を意識して認め合うことができたことも、進んで音楽表現する上で有効だった。

2 課題

今後、自分の思いを音楽で表現できる児童の育成を目指し、さらに次のことに取り組んでいきたい。

- 本研究では思いや意図をもつための方法として身体表現や手拍子・拍打ちなどを用いたが、様々な場面でより子ども達にとって有効な手立てを考えていく必要がある。
- 音楽で表現するためには、それを表現できる技能が必要になってくる。より児童が音楽表現の幅を広げるために、基礎的な技能の習得にも力を入れていく必要がある。
- 本研究では、鑑賞と歌唱の学習を関連付けた題材構成の工夫を行ったが、「鑑賞と創作」「表現と創作」といった題材構成の工夫もできると考える。今後は、より効果的な題材構成を考えていきたい。